

あけましておめでとう



東京都大田区蒲田
5の10の2
全日本港湾労働組合機関紙
(毎月1日発行)
一部20円(組合員の購読料は組合費の中に含む)
発行責任者
松永英樹



新年明けましておめでとうございます。組合員並びのご家族の皆様には、お健やかに新年を迎えられたことと謹んでお慶び申し上げます。



新年あいさつ

中央執行委員長 真島 勝重

日本のように減少する国、医療制度による平均寿命など安易に語れませんが、国際移動が更に加速することは明らかです。

一方、国内における女性の社会進出が経済協力開発機構加盟二九カ国中において、働く女性のための環境は二八位です。今の男女における雇用格差がなくなり女性の社会進出が加速すれば、労働人口は八百人以上増加し、国内総生産も押し上げるといわれています。

二〇二〇年が始動しました。最初に、私が労働組合専従役員になったのが、二〇〇〇年八月ですので、既に二〇年が経過しました。二〇年前当時、シドニーオリンピックで、柔道では田村亮子、女子マラソンでは高橋尚子の金メダルに感動しました。今年の東京オリンピックはそれ以上に期待を持って待ち望んでいる方も多いと思います。私自身、この二〇年を総括し、年頭に当たり、全港湾の十年後の未来を創造したいと思っています。

昨年実施した全港湾の港湾関係労働条件調査まとめによると、平均年齢が四一歳です。すなわち、国土交通省が提起しているPOR T二〇三〇、十年後に全港湾の多くの組合員が港湾労働の中核として活躍しています。実際に、この二〇年間で、全国大会をみてもわかる通り、多くの中堅層・青年層が参加し、活発な議論を展開しています。二〇〇〇年十一月に港湾運送事業の規制緩和が実施され、事業免許制が許可制に、認可料金制が届出制に改められ、当時、私は多くの港運事業者が淘汰されると思い、将来の不安ばかりでした。しかし、今日に至るまで、産別別労働運動の力により守られていること、このことに労働運動の将来を感じています。

次に近年、港湾に限らず、すべての分野で労働力不足が叫ばれています。しかし、世界規模で見ると、国連の発表では、世界人口の増大がやや鈍化し、二一〇〇年頃に百十億人で頭打ち、すなわち、やっとピークを迎えると予測しています。これらは、増加する国と

日本のように減少する国、医療制度による平均寿命など安易に語れませんが、国際移動が更に加速することは明らかです。

一方、国内における女性の社会進出が経済協力開発機構加盟二九カ国中において、働く女性のための環境は二八位です。今の男女における雇用格差がなくなり女性の社会進出が加速すれば、労働人口は八百人以上増加し、国内総生産も押し上げるといわれています。

私たちは魅力ある運輸産業、自信と誇りに満ちた職場を労働運動の基軸として、次の世代につなげるべく展開していかねばならないことを新年にあたっての決意として述べさせていただきます。

最後に二〇二〇年の干支は子年(ねどし)で、正確には庚子(かのえ・ね)です。庚子は変化が生まれる状態、全く新しいことに挑戦することに適した年といえます。「なせば成る なさねば成らぬ 何事も 成らぬは人のなさぬなりけり」です。組合員、執行部が一丸となって活発な議論を展開していくことを誓い、全港湾の歴史と伝統を継承し、発展していくよう、本年もよろしく願っています。

最後に二〇二〇年の干支は子年(ねどし)で、正確には庚子(かのえ・ね)です。庚子は変化が生まれる状態、全く新しいことに挑戦することに適した年といえます。「なせば成る なさねば成らぬ 何事も 成らぬは人のなさぬなりけり」です。組合員、執行部が一丸となって活発な議論を展開していくことを誓い、全港湾の歴史と伝統を継承し、発展していくよう、本年もよろしく願っています。



全国の組合員の皆さん、あけましておめでとござい... 昨年はどんな一年でしたでしょうか?二〇二〇年の年頭にあたり、広い意味で昨新人の立場になられた方々に抱負を語っていただきました。本年が実り多き一年でありますように。(編集部)

北海道地方釧路支部

野上一平



この度、新執行部になりまして北海道地本釧路支部の野上一平と申します。宜しくお願い致します。

特に私の方からは一つ、労働基準法が改正をされ、働き方改革に関わる内容、政省令、指針、順次審議会において決められ、まずはいち早く

労働時間削減、罰則付きで残業の上限の時間を決めるとい

うこと、あるいは年休取得の問題。このことにおいて、われわれが労働組合として何をポイントに、具体的にどういう取り組みをしていくのかという点について、自分で考え、分らないことは諸先輩でいろいろ活動に参加させていただき、多くの事を学ばせていただきました。

と申す所存です。自分にできることを着実に学び、労働組合、労使関係という枠組みを持つわれわれが働く仲間のために足元を照らすとともに、

労働組合排除を押し進めようとする国政にしっかりと立ち向かい、波及させるべく継続的な運動が必要になってくると思ひます。最後にありますが執行部としては今年一年が最初の年で、分からないことはばかりの若輩ですが、自分なりに働

東北地方秋田支部

小松田一彦



明けましておめでとございませう。私は昨年七月十四日に全港湾秋田支部船通分会設立に伴い執行委員長を務めさせていたたく事になりました。小松田一彦と申します。

新加入という事で、第九〇回定期全国大会に特別代議員

日本海地方敦賀支部

藤上大河

今期より日本海地方青年部書記長を務めさせていただきますことになりました敦賀支部の藤上大河と申します。初めてのことばかりで知識・経験ともに少ないですが、そんな中でいろいろ活動に参加させていただき、多くの事を学ばせていただきました。

なかでも印象に残っているのは、岩手県で開催された青年部対策交流会です。市内のロードワークに行きました

く仲間のために何が出来るかを第一に考えながら、まずは声を上げる、自分の考えを持ち誠意を持って活動していきたいと思ひます。至らないところがたくさんあると思ひますが何卒ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

関東地方鹿島港支部

野口誓士



私は中途で入社をし、全港に加入し青年部にも加入をしました。関東地方鹿島港支部の野口誓士と申します。職種は港湾事務職の配属となりフォアマン業務に日々奮闘しております。

前職は組合自体がなく社会人として初めての組合活動と初めてで日々勉強の毎日です。これから様々な活動を通して、皆さんと価値観や考えを共有できることを楽しみにしておりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

東海地方清水支部

遠矢進一



みなさん、新年あけましておめでとございませう。二〇一八年度より清水支部書記次長に就任しました遠矢進一

だ未熟で分からないことが多く先輩方の背中を追いかけていくのがやっとなのですが、共に働く仲間や清水支部に貢献できるように頑張ります。

東海地方名古屋支部

赤木 敬



皆さま、新年明けましておめでとございませう。二〇一九年度から支部青年女性部長を務める事になりました、検数の全日検分会赤木と言います。

関西地方築港支部

大河原駿

この度築港支部書記長を拝命致しました大河原駿と申します。今年度の抱負につきまして申し上げます。関西地本においては、組合員の政党の支持を自由として



四国地方新居浜支部

菅 剛正



力をいただきながら、全力で全港湾運動に邁進していく決意です。

新居浜支部は、愛媛県の新居浜港で働く港湾二分会とトラック一分会で、約六〇名の組合員で構成されています。

お疲れ様です。この度、八月二十九日に行われた全港湾新居浜支部の大会において執行委員長に就任いたしました菅剛正です。このような大役を任されるには、まだまだ微力であり、諸先輩の方々のご指導と、組合員の協

九州地方本部



岡橋めぐみ

抱負は「二年目こそ進化がとられる」です。一年目は「まだ入ったばかりだし、しょうがない」と周囲からの配慮があります。

二〇一九年一月より、全港湾九州地方本部書記局の書記に新任しました岡橋めぐみです。

これまでの、主に教育機関で経理事務員として勤務しておりました。門司港に生まれ育った私としては、全港湾という港に関わる仕事ができることを大変嬉しく思います。

採用され一年になります。まだ分からない点が多く、委員長をはじめ多くの方々に支えられる日々を過ごしています。今後も組合員の



秋年末闘争の経過と総括について(案)

経過と総括について(案)

抱っこで、まだ何の役にも立っていません。しかし、新居浜支部の新委員長になったからには、まず自分の分会、支部をきっちりまとめ、橋崎委員長率いる四国地方の力になりたいと思っています。

私自身、支部委員長就任の前に、二年余り分会長に就任していましたが、責任の重さは全く違うと思っています。

浅学非才の身ではありますが、全力を挙げて組合員の生活と雇用を守るために頑張りますので、全国の仲間の皆様方のご指導ご鞭撻をお願いします。

秋年末闘争の経過と総括について(案)

経過と総括について(案)

十二月十日、十一日に開催された第四回中央執行委員会において、二〇一九年秋年末闘争の経過と総括について(案)について確認がこな

されました。全文は掲載できませんが、その一部を抜粋し掲載します。(編集部)

I. たたかひの経過
全港湾各地方は、第九〇回定期全国大会で確認された秋年末闘争方針の下、冬季一時金の獲得や労働条件の到達、継続交渉を積極的に取り組んできた。

1. 労働条件引き上げのたたかひ
港湾における制度政策闘争

(1)秋年末統一闘争(全国港一九秋年末闘争中央行動が十一月十四日(木)～十五日(金)にかけて行われた。一

四日は総勢七三名が参加して、国土交通省と厚生労働省へ「港湾政策ならびに港湾労働に係る申し入れ書」に基づき協議を行ない、その後、全国港湾常任部を中心に経済産業省と外国船舶協会、日本貿易会とも申し入れを行った。

十五日は早朝より院内集会が開催され、各政党からの連帯のあいさつと政策懇談を行ない、中央行動のまとめが報告され終了した。また、二十日(水)には、全国港湾一部常

任にて消防庁との申し入れ行動に取り組んだ。

(2)労使政策委員会(全国港一九春闘後、初めての労使政策委員会を十一月一日(金)に開催した。日港協から一九九年度年末始例外荷役の取り扱いについて、②春闘協定における協議課題について、③横浜港本牧D-1バースの早朝及び昼休みのゲートオープンについて提案された。組合は、①については、労働条件を昨年と同様としたことから確認書を協定、②については、課題の整理を行ない関係委員会と協議を進めていくことを了解、③については、労働者の過剰な負担とならないように地区労使で協議を行なうことを求め了承した。

3. 海コン・トラック・バス労働者の制度政策闘争
(1)海コン・トラック・バス同対策会議
十一月十一日(水)～十二日(木)にかけて合同対策会議を開催した。今回の合同対策会議は国土交通省や厚生労働省との学習・意見交換会を行ない、交運協からは慶島事務局長を講師として招き、「ホワイト物流」についての学習会を中心に行った。今回は時間的猶予がなく分散して提出する要請書の案について持ち帰り検討することとなった。

(2)さよなら原発全国集会が九月十六日に代々木公園にて開催され、全港湾から青女部を中心として東北地方四〇名、関東地方四八名、中央本部五名の総勢九三名が参加した。

(3)JCO臨界事故二〇周年集会が九月二十九日開催され、東北地方四二名と関東地方四名が参加した。

(4)ロナルドレーガン母港化抗議集会が十月一日に横須賀ウエルニー公園で開催され、関東地方二五名と中央本部三名が参加した。

5. 平和、人権、環境を守るたたかひ
(1)被爆七十四周年原水禁福島大会、広島・長崎大会が各々開催され、福島大会には東北地方二名、広島大会には関西地方二名と中央本部一名が参加した。

(2)さよなら原発全国集会が九月十六日に代々木公園にて開催され、全港湾から青女部を中心として東北地方四〇名、関東地方四八名、中央本部五名の総勢九三名が参加した。

(3)JCO臨界事故二〇周年集会が九月二十九日開催され、東北地方四二名と関東地方四名が参加した。

(4)ロナルドレーガン母港化抗議集会が十月一日に横須賀ウエルニー公園で開催され、関東地方二五名と中央本部三名が参加した。

5. 平和、人権、環境を守るたたかひ
(1)被爆七十四周年原水禁福島大会、広島・長崎大会が各々開催され、福島大会には東北地方二名、広島大会には関西地方二名と中央本部一名が参加した。

(2)さよなら原発全国集会が九月十六日に代々木公園にて開催され、全港湾から青女部を中心として東北地方四〇名、関東地方四八名、中央本部五名の総勢九三名が参加した。

(3)JCO臨界事故二〇周年集会が九月二十九日開催され、東北地方四二名と関東地方四名が参加した。

(4)ロナルドレーガン母港化抗議集会が十月一日に横須賀ウエルニー公園で開催され、関東地方二五名と中央本部三名が参加した。

(5)憲法理念の実現をめざす第五六回護憲大会が十一月十七日から十九日までの間北海道内で開催され、北海道地方より三名が参加した。

(6)平和フォーラム主催の「ピーススクール」が東京で開催され、東北地方より二名が参加した。

1. 労働条件引き上げのたたかひ
全国港湾の一九秋年末闘争中央行動では、国土交通省や厚生労働省、経済産業省との交渉を行ないました。国土交通省と厚生労働省では回答自体には前進するものはありませんでしたが、問題に対する考え方や認識での前進がありました。消防庁との交渉では、問題解決には各省庁との連携、特に経済産業省との関係が必要ながかり、年

に二回程度ではなく情報交換も含めての各省庁との関係性の確立が急がれます。

日港協の「統一回答否定問題」では、日港協との団体交渉の結果、再度問題解決に向けて労使で協議を行なうこととなり、また、「中労委への救済申請」という全国港湾定期大会での確認を上層部だけで中断するといったことには疑問が残りますが、二〇春闘まで回答を行なう確認が取れなければ即刻「中労委への救済申請」を行なわなければならないと、一九春闘をいま一度振り返り、組合員が納得でき、要求実現のために一丸となれる二〇春闘とならなければなりません。

以上

以上

以上

以上

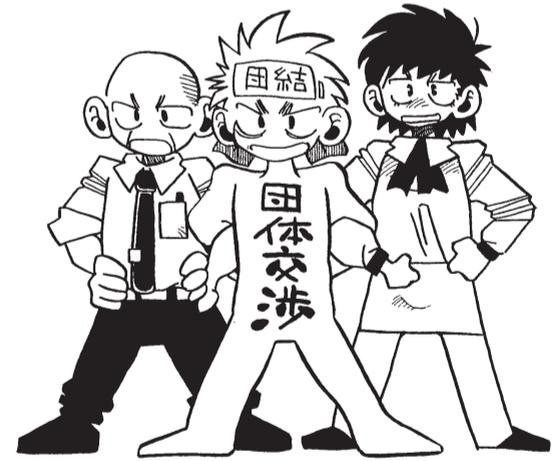
以上

以上

以上

以上

以上



冬季一時金大幅増！22年ぶりの50万円台 速報分会受結額平均499,161円 闘争分会受結額平均504,765円

全港湾の冬季一時金闘争が概ね終結した。最終的に獲得額は大幅なアップとなった。全闘争分会で受結額平均が50万円を超えたのは1997年以来、実に22年ぶりのこと。闘争の続いている分会も若干あるが、集計としては12月12日を以て締めとした。

全闘争分会の回答状況

12月12日、闘争分会315分会中、264分会(84%)に有額回答が示され、そのうち251分会が妥結した。回答額平均は501,664円(昨年同時期の回答額平均494,919円を29,248円上回った)、妥結額平均は504,765円、率は1.73ヶ月となった。2018年闘争分会全体の冬季一時金妥結額実績489,563円を15,202円上回る結果となった。

職種別の回答状況

港湾の回答額平均は523,792円(昨年同時期の回答額518,282円を5,510円上回った)。

トラックの回答額平均は397,681円(昨年同時期の回答額389,723円を7,958円上回った)。

一般の回答額平均は436,569円(昨年同時期の回答額平均428,242円を8,327円上回った)。

速報分会の回答状況

12月12日、140分会中、125分会(89%)に有額回答が示され、そのうち121分会が妥結した。回答額平均は518,970円、妥結額平均は499,161円、率は2.14ヶ月となった。2018年速報分会の冬季一時金妥結額実績491,440円を7,721円上回る結果となった。

港湾関係の回答状況

日港労連：全検部門12月3日妥結、483,194円+α

検数労連：全日検 12月3日妥結、483,194円+α

日 検 12月3日妥結、448,407円+α

検定労連：海事検定12月2日妥結、760,000円

シンケン11月25日妥結、480,000円

新日本検定 890,000円

全倉運：12月2日現在、631,392円、2.381ヶ月となっている。

大港労組：11月19日妥結、508,000円

全日通：春闘時妥結、600,000円

他団体の回答状況

連合(11月28日現在)の集計では、加重平均682,828円で、昨年実績710,711円を27,883円下回っている。

国民春闘共闘(11月18日現在)の集計では、加重平均631,247円で、昨年同期の703,847円を72,600円下回っている。

日本経団連(11月14日現在)の集計では、加重平均964,543円で、昨年同時期の950,384円を14,159円上回っている。



(東北地方小名浜支部
武田陽介)



第二回ピーススクールに 参加して

十月十九日から二十一日にかけて、平和フォーラムの第二回ピーススクールが開催され東北地方から二名が参加しました。その二名から感想文が寄せられましたので掲載します。

普段会うことのできない労働者を受け入れていく中で新しい知識を得ることに面白さや刺激を感じ、ふと気づけば楽しみの必要かを考えて行動することが大事だと気がきました。ピーススクールに参加する上で私は「繋がりを一緒に」という目標を立て、三日間でたくさんの方と交流し話せることができました。地元の話、自分の所属する労働の話、趣味的な話、様々な会話をしながら、話の中で繋がりが作ることができたと思います。地元も労働者も抱えている問題も様々で今回ピーススクールに参加しなければ出会うこともなかったかもしれない人たちと仲間になることができたのは一番大きな財産になりました。

最初は内容のハードさに正直驚かされました。労働組合の運動として、日頃から基地問題、憲法、核といった問題については取り組んでまいりましたが、講義を受け、初めて知ったことや改めて知識を得る機会がなかったらと思うかもしれません。また、全ての抗議を受け、一番大事なことは「学んだことを伝える事」にあると感じました。少人数だけが頑張る活動は徐々に衰退していくので、家族、友人にもしっかり伝え、地元、地方から盛り上げていける取り組みをしていきたいと思っています。

分の所属する労働の話、趣味的な話、様々な会話をしながら、話の中で繋がりが作ることができたと思います。地元も労働者も抱えている問題も様々で今回ピーススクールに参加しなければ出会うこともなかったかもしれない人たちと仲間になることができたのは一番大きな財産になりました。

(東北地方ひたち支部
薄井栄人)

全日本港湾労働組合 綱領

1. 我等は広く万国の労働者と提携し、世界の進運に寄与し、以て国際平和の確立を期す。
1. 我等は我国、民族産業を独占資本の搾取の桎梏より解放し、以て民主主義日本の建設を期す。
1. 我等は港湾産業の国際性に鑑み、確固たる責任感と強靱なる組織力をもって使命達成を期す。